

波佐文化協会の歩み（PDF版）

③

3. ふるさと起こし事業の推進

- ・ 偉人顕彰（能海寛・島村抱月）活動
- ・ 研究・顕彰・フォーラム

4. 住民の自己教育力の育成

- ・ 第2次「なわて塾」
- ・ 島村抱月文学散歩コースの策定

ふるさと起こし事業の推進

- ① 郷土の偉人の顕彰運動の推進
(能海寛 & 島村抱月の研究顕彰・出版活動)
- ② 「郷土の傑人顕彰板」の建立
- ③ 「田ばやし」の復活
- ④ 能海寛顕彰碑建立のため顕彰会設立を発起
- ⑤ 「新波佐八景」の制定
- ⑥ 特集「ふるさと再発見」の企画
- ⑦ 常磐山のカシ林の整備
- ⑧ 参加創造型の観光学習のあり方を研究

「郷土の偉人」の顕彰運動

II ふるさと起こし事業の推進

1 人材と伝統文化の発掘

(1) 『郷土の傑人』の顕彰運動

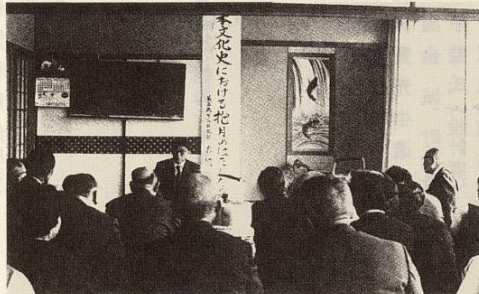
能海寛、島村抱月の故郷の二大偉人を町の目玉として全国へ発信をしようと、「郷土の傑人顕彰板」の建立を発起して顕彰運動の推進することにした。

昭和四十三年頃、明治百年を記念して「島根の百傑」の選定がなされ島根県下百人の人傑が選任された。蓋をあけてみれば、金城町では島村抱月がただ一人選任され、能海寛は選外となったのである。どうして選に漏れたのと検討した結果、幼年期、少年期、青年期の履歴が欠落していることに気づき、これではいけない、故郷に居る者の責任だと、考え能海寛と島村抱月の経歴の発掘顕彰活動に取り組むことにしたのである。

当初は、能海寛、島村抱月ともに町民に広く知れ渡っていたとは言えない状況であった。この為に、先ず顕彰板による略歴を以て周知するが先であると判断して、「郷土の傑人顕彰板」の設置を広く町民へ呼びかけるための趣意書を作成した。この結果約九十万円の寄付金が集まった。これをもって設計者は浜田市の田原建築設計事務所様、施工

者は浜田市の本川工務店様による顕彰板の建立、株式会社丸田浜田営業所様による銅版製の略歴年譜が完成した。詳しくは、後段のII 2 (1) 及び (2) を参照願います。

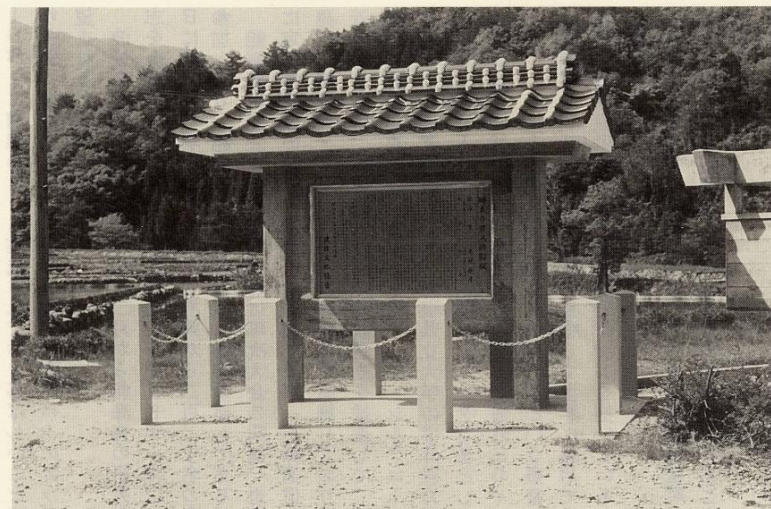
☆☆☆☆



記念式典（法要・講演会）の様相



郷土の傑人顕彰板除幕式記念



郷土の傑人顕彰板建立(S51. 11. 28)

郷土の傑人顕彰板の建立

郷土の傑人

昭和五十一年十一月二十八日午後一時
金城町 民俗資料館 館庭にて
能海 寛先生
島村抱月先生

顕彰板除幕式次第

- 一 開式の辞 波佐文化協会 榎 時男
- 一 除幕 (能海寛遺族)能海モモエ氏
- 一 記念法要 導師衆僧入場
焼読 香經

- 一 導師退場
- 一 会長あいさつ
- 一 経過報告
- 一 感謝状贈呈
- 一 祝詞

竺川 浄光寺住職
能海 浄蓮寺住職
榎田 波佐文化協会長
能海 寛先生遺族
三浦 金城町長
田原 整氏(設計者)
本川 潔氏(施工者)
引き続き一般の焼香

榎田 修身
隅田 正三
三浦 金城町長
石田 町議会議長
田中 波佐自治振興会長

島根路も 奥まる金城傑人を
讃える日なり 初雪の中

村人の 知らざるまに 世に出てて
新劇起こせり 遠き明治に

抱きたる 夢をうつに 実らせて
世去りし人のカチューシャの唄

月めぐり 年のめぐりて半世紀
過ぎたる里に 顕彰板樹つ

能わさる 事のなしとて 西蔵に
求道に発たれて 七十余年

海越えて なおのぞめども 無き翼
なげきに云いて 寛師果てたり

寛なる妻よと 袖を振らしめて
天頂山を 発たれて畢る

☆☆☆☆

- 一 祝電披露
- 一 献句献詠披露
- 一 閉式の辞
- 一 記念撮影

記念特別講演

日本文化史における抱月のはたした役割

- 記念特別展 能海 寛・島村抱月展

☆☆☆☆

献句献詠

岡本良生

初雪や 郷土の庭の 除幕式
初雪に 月寛併せ 除幕かな
功績を 郷里に刻む 雪の庭

石田村一

新劇の 手ほどき偲ぶ 初時雨
佛法の 遺稿を拝す 初笑

上田房一

郷土の傑人顕彰板

能海 寛 (宗教家・哲學家・探險家)

島村 抱月 (日本新劇の創始者)

明治元年五月十八日那賀郡金城町長田真宗大谷浄蓮寺に生まれる。十二年十月京都東本願寺に得度する。二十三年慶応義塾と哲学館に学び二十六年七月哲学館を卒業。同年十一月仙教哲学の論文「世界に於ける仏教徒」を自費出版しチベット探検の必要性を発表。二十七年一月浄蓮寺理家あて「口代」を残し同年二月頭髪を切りチベット探検の意志を固めると共に深山奥谷を設歩し冒険を試みる。二十八年松田市沖の高島で寺小屋教育を開設。二十九年三月東京で梵語と支那語を学ぶ。三十一年四月里で妻佐々木静子と娶れども志は変わらず同年十月に意を決して京。同年十一月神戸港から西京丸にて支那に向う。三十三年三月般若心経西藏直訳の梵・藏・漢。英対訳訳をなす。三十三年八月十五日チベット丹達郷に入国。三十六年十二月チベット國境で投書される。チベット訳の般若心経は後に遺稿たる手本により「梵藏日漢四體合璧心経」が刊行される。

これら二氏の遺徳をたえ郷土の傑人としてその業績を略語に表わし広く一般に周知すると共にこれを顕彰するものであります。なお、この顕彰板は町内各位から寄せられたご厚志によって完成したものです。

昭和五十一年十一月二十八日

波佐文化協会



郷土の傑人顕彰板(能海寛・島村抱月)S51. 11. 28建立

「田ばやし」の復活

(2)「田ばやし」の復活

波佐地方では、大花田植えの起源は定かではないが、「田囃し台本」や「代掻き台本」などによると江戸時代後期頃から盛んに行われていたことが伺える。大花田植えは「大田植」「大田伶」「大代」と称していた。神仏混合による「サンバイ神事」「牛供養」が併用される点が特徴である。「田ばやし」は伝統ある六調子である。

花田植えには過去において五つの主催目的があった。

- ① 大花田植えの歴史的流れは田植組（五〜十軒での組織）のユイ講により田植えを行い、集落の一番最後に植える田圃で太鼓、鉦、笛の鳴り物入りで賑やかに田植え唄を歌いながら代満て（泥落とし）を行う時に実施していた。
- ② 江戸時代には凶作の翌年には隣村の村々から玄米を拠出し合い、その集落に集まってサンバイ神事で豊年を祈願し「花田植え」を実施していた。
- ③ 伝統民俗芸能の継承のため、田囃しの親唄を歌うササラ役の「ササラ譲り」の儀式により、継承する時に「花田植え」を主催する義務が課せられているために実施していた。
- ④ 伯楽師や牛馬商人が牛の供養をするために「牛供養」と称して「花田植え」を合わせて実施していた。

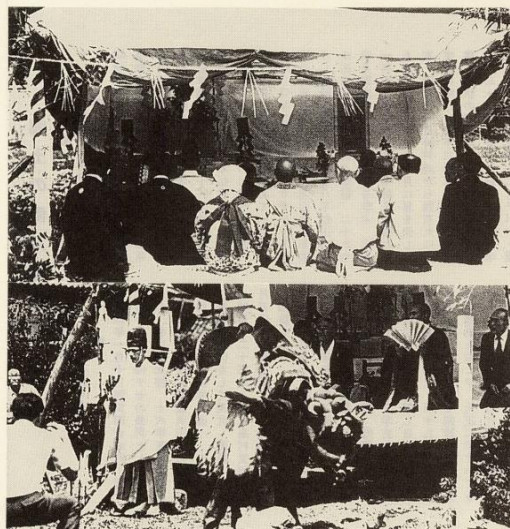
こうして、昭和五十一年六月六日（日）金城町波佐において、「波佐の大花田植」事業を実施した。主催者は波佐文化協会、後援団体は金城町教育委員会、波佐自治会、畜産振興組合波佐支部、波佐田楽保存会、西中国山地民具を守る会、波佐地区婦人会で実施した。田主は沖田国正氏の田圃で行った。

◇行事日程

七・二	役員集合（打食）
七・二〇	各部署諸準備・点検
七・二〇	さんばい神事（牛は調子を出発）
七・三〇	開会あいさつ（波佐文化協会）
七・五	牛供養（代かき）
七・五	御神酒をいただく（先、きり、田主）
七・五	昼食（田植えす、牛は草）
七・五	さんばいの礼ぐわ
七・五	道中ばやし（波佐農会から発）
七・五	あげばやし
七・五	田ばやし、早乙女による田植え
七・五	はすま（休憩）
七・五	代かき、田ばやし、田植え
七・五	閉会あいさつ

⑤ 新田の開墾により、新田の床絞めのために田主が主催者となって「花田植え」を実施していた。

こうした過去の経緯を踏まえ昭和五十年秋頃から伝統芸能を復活し、正しく継承するために、若干の聞き取り調査と古文書の調査を行い、昭和五十一年正月から花田植え復活に向けて協議会を作り諸準備を行ってきた。



さんばい棚（神仏混合・さんばい神事と牛供養）

◇役員名簿

顧問	田中宅次郎、
会長	横田修身、
副会長	鎌原茂治、石田村一、古田安五郎、一町仁市、
総務	岡本良生、酒井忠雄、上山 均、
庶務	隅田正三、相木ナミエ、
記録	上山 均、隅田正三、上山信人、上田房一、
受付	隅田哲夫、
放送	榎 時男、佐々山隆治、小林定雄、
会 計	宇田初男、
祭典	田中タキヨ、沖田トシエ、
煙火	上田房一、西林寅夫、佐竹邦夫、
会場	堂原富喜、
接待	佐々岡芳高、田中末一、青木甚市、阿妻博之、
炊事	山崎義高、佐々岡 定、橋本幸男、
	岩田暦男、坂本貞義、岡本忠義、田中末一、
	横山洋子、
	塚本八千代、横田綾子、美川良恵、榎並貞子、
	上田十三子、山崎良子、松川アサエ、石田歌子、
	萬代ユクエ、上山夏江、竹本弘子、小林美代子、
	隅田静子、植田栄枝、

畜産 前田亀義、小林作太郎、能海登、橋本勇夫、

佐々岡惣次郎、

先づきし 沖田利和、

苗もち 沖田茂、横路末広、

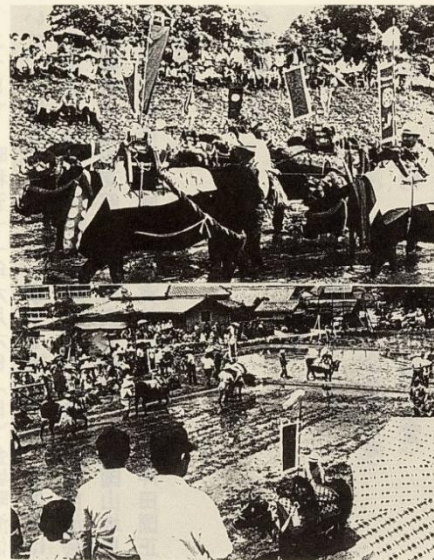
しなひき 萬代繁一、上山信人、

田楽 田原治三郎、岡本義信、幸田 斉、岡本寿明、

幸田英夫、

早乙女 小林キクヨ、小林ウメ、小林ハギヨ、幸田安子、

幸田松子、山本勝子、長田和子、



大代（おおじろ）の様

◇さんばい神事・牛供養

きばい神事 渡八幡宮 串崎正竜

牛供養 寺島佳胤 木村利道

笛 石橋教二、

太鼓 有田貞吉、

◇花田植え出演者（代かき）

本ザキ 岡田立身（牛は田齊）

中ザキ 横山久雄（牛は栗栖昭美）

後ザキ 岡本定友（牛は横田修）

客 牛 （左）岡本繁一、（右）岡本

代かき牛 大野貞雄（牛は）、山崎義高（牛は）、佐々岡惣次郎、

能海登（牛は稲田政）、長田勇（牛は稲田政）、

佐々岡惣次郎、

◇花田植え出演者（田ばやし）

ささら 古田安五郎、

ぼんでん 澄川徳一、

小太鼓 幸田 斉、

かね 坂本兵次郎、

笛 岡本寿明、石橋教二、

胴 頭 岡本寿明、

中 上山久男、

大 胴 後

田原治三郎、

澄川和則、加納昭則、西林寅夫、中谷忠夫、

隅田哲夫、塚本 守、竹田 聰、和田茂恒、

青木 覚、竹本 怜、稲田政人、中田昭義、

◇花田植え出演者（早乙女）

頭早乙女

早乙女

小林キクヨ、

小林ウメ、小林ハギヨ、幸田安子、幸田松子、

長田和子、山本勝子、一町仁市、古田歌子、

飯田忠子、能海俊子、佐々岡花美、沖田朝子、

沖田フサノ、佐々岡多鶴江、佐々岡澄子、

芹原あゆみ、藤本千澄、岩本浩美、斎藤恵子、

斎藤昭子、永沢和美、小林三千代、松崎ユリカ、

岡本美智代、天野絹子、西坂喜代美、幸田マミ、

山本ルミ、河崎ユカ、



花田植えの様（\$51.6.6）

波佐地方の田植え唄

苗 取

- 一、東向きの車戸少し開けてみれば
金に優る朝日さす 少し開けて見たれば
開け見たならさも照りそうな朝日よ
- 二、この苗若いけれど袂に手を入れてな
裏の肩に手を入れて 袂に手を入れてな
袂に手を入れ取ろうやこの田の若苗
- 三、今朝殿主の見送りに髪さし落とした
落としたもどおりよ 殿に心とられた
殿に心とられ朝草刈が拾うた

三 ば い 礼 儀

- 一、天じゅくの龍の白い木
楊枝にけずりほそめた
- 二、拍子木には南天じゅくの枇杷の木
- 三、けふの田主は黄金の楊枝をくわへた

(あげ)

- 七、おん酒くる肴にやあ何がよ
ちしやの葉を酢あえにやあえてよ
酒の肴にや麻のほとりのちしやの葉
- (ぬきどう)
- 八、婿殿の馳走には何になにが馳走だ
えびやら鯛やら五十両で買うたる
金の御盃まず婿殿に差し上げよ

金の御盃よな

- 九、沖の大川の鮎の三つ連がな
上がるやら下がるやら鮎の三つ連がな
濁すまいぞや鮎取る川のおかしらを

- 十、西の宮には獅子が舞うたよな
げに舞うたよな獅子が舞うたよな

西の宮には子巫女が舞いを舞うたよな

- 十一、春日の宮にこそ神かぐらあるとな
吾らも参ろうや神かぐらあるとな
やぐまかついで春日の巫女が舞うとな
- (ぬきどう)
- 十二、琵琶ひょうひょう小琵琶ひょうひょう
琵琶どこにおいてきた夕べの所の
しら橋のおでの

さるうには小琵琶また琵琶なかりけり
琵琶も小琵琶も夕べの所に忘れた

田 植 え 唄

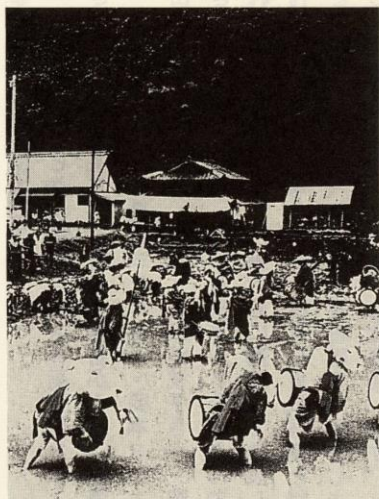
- 一、笠の端が揃うたがどこ笠が揃うた
つつきつぽに京笠に大和笠が揃うた
白い菅笠皆もろともに手に持ち
- 二、参拝参拝と祭る神なれば
赤い柱書いてたもれよいや参拝な
今日の廣田参拝おろして参らしよう
- 三、しんだれ小柳拍子木に良いとな
削り細めて拍子木に良いとな
おしやこのんだ小柳日拍子を落とした
- (ぬきどう)
- 四、田主の門の田に米が下がりがりたおんだ
米やら金やら千石にまされたる
米がこだれた田主の前のわさ稻
- 五、わしや京へ上るが伽やござるまいかな
わしがもとの才太郎を連れて上れや
連れて上りて京清水をおがましよう
- 六、京の八幡の松の小枝にな
鶴が巢をかけ松の小枝にな
松の小枝にげに住み良いかな鶴の子

- 十三、代牛は上がりたが駒どこにつないだ
つねを越し谷を越し下り松につないだ
うねを越しては野ぎわの松につないだ

- 十四、今日の早乙女は名残れおしや早乙女
洗川のよしの根で文を書いて渡いた
名残り惜しやと恋文書いて流いた

- 十五、昨日より今日見れば門の松が高いよ
高いこそ道理よ徳の笠が勝りた
徳が勝りて空舞う鶴をおろいた

(註 一行目↓親唄 二行目↓子唄
三行目↓おろし唄)



(3) 『新波佐八景』の制定

波佐には、江戸時代から波佐八景が定められ地区民に親しまれてきました。しかしながら、波佐八景も自然災害等により一部消滅したこともあり、現状と掛け離れたものになってきました。そこで、波佐文化協会では時代にマッチした八景を選んでいただくとうと昭和五十九年八月に「新波佐八景」なるものを公募して地区民総意で制定しようという提案しました。

募集方法は、季刊「なわて」第五号に掲載し全戸配布して周知し、官製はがきに「新波佐八景」を記入して十月三十一日締め切りで応募していただく方法をとりました。選定方法は、上位得票八位までをもって決定する方法をとりました。応募者の中から抽選で十名様に粗品を進呈することで集計した結果一三七通の応募をいただきました。

- ① 常磐山八幡宮と大杉
- ② 弥畝山の夏場放牧場
- ③ 笠松峠の畳石と涼みの松
- ④ 波佐一本松城址とブナ林に囲まれた城山キャンプ場
- ⑤ 大佐山の冠雪
- ⑥ 天頂山浄蓮寺と能海寛師顕彰碑
- ⑦ 大潰山の柏と山ツツジの群落

足掛かりを醸成し高齢社会と福祉社会への対応を学びながら地域開発をも創生するふるさとカルチャー塾を目指すことを目的に特集を組んだものです。これらについて、詳しくは巻末の季刊「なわて」を参照ください。

(5) 常磐山のカシ林の整備

島根県では、昭和六十二年度から身近にある優れた自然を将来にわたって保護していくために自然環境保全地域の推進策の一つとして、「みんなで守る郷土の自然地域」を選定され、当金城町でも昭和六十三年に「常磐山のカシ林」が指定され、管理団体として波佐文化協会が受託した。

平成四年度には島根県からの助成事業を受けて「カシ林」の遊歩道整備事業を実施した。完成後、カシ林の自然観察会を開催した。

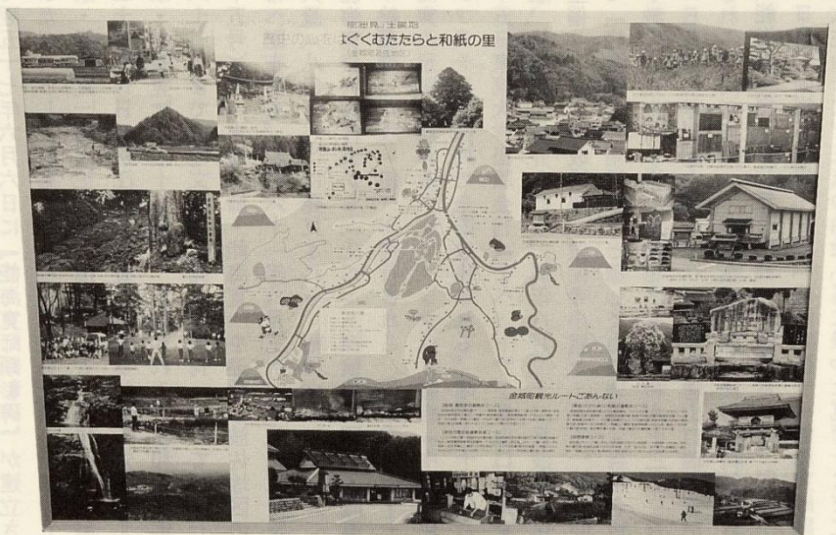
このカシ林は、波佐の常磐山八幡宮の裏山にあり、ウラジロガシ三十三株が森全体の三ノアルに自生し、天然性のアシオスギ五株（島根県指定天然記念物）、ヤブツバキ百株、ホオノキ、コナラ、ヤマフジなどが混成している。またシロダモ、ユズリハ、の低木、チャボガヤ、ハイイヌガヤなどの常緑針葉低木の混成樹林で西限植生として貴重である。

⑧ 猿滝の紅葉と小猿の滝

一三七票の中にビタリ賞が三名（日高益代さん・古和忠雄さん・小林サチ子三）、粗品当選者が十名（能海俊子さん・酒井シズエさん・桑原ヨシエさん・岡本ヨシエさん・小田豊乃さん・天野忠一さん・山田美枝子さん・岡崎比佐子さん・奥本初美さん・幸田英夫さん）の皆さんでした。これらは、季刊「なわて」第六号に掲載して発表しました。季刊「なわて」第九号から第十四号の表紙写真と特集ふると再発見Ⅱ新波佐八景Ⅱ欄で解説記事で紹介しました。詳しくは巻末の季刊「なわて」を参照願います。

(4) 特集『ふるさと再発見』の企画

新波佐八景を制定と同時に特集ふるさと再発見シリーズをスタートさせました。「ふるさと再発見」シリーズは我々の身近にある平素気のつかない自然環境のスバラシイ箇所スポットを当てふるさとを今一度見直そうと企画したものです。「新波佐八景」に続き「ふるさと小包」を取り上げ特産品の紹介を特集しました。次いで「ふるさとカルチャー『なわて塾』」を特集し、社会教育を媒体としたユニークな町おこしを続けている波佐地区のふるさと参加創造型学習を通じて住民の自己教育力を高め、地域自立への



波佐地区の観光パンフ

研究・顕彰・フォーラム



能海寛顕彰会役員一同(1981. 6. 6竣工除幕)

2 研究・顕彰・フォーラムによる生涯学習

(1) チベット探検家『能海寛』の研究顕彰

能海寛に関わる過去の顕彰運動については次のとおりである。大正六年四月三十日寛の十七回忌の法要が浄蓮寺で執り行われる。この法要を記念して能海寛追憶会・私立大谷大学内では『能海寛遺稿』が出版される。昭和十七年十一月四日付け本山より西蔵入蔵で殉死した寛に対して『大僧都』が追贈される。同年十二月五日には寛の四十回忌法要が勤修される。

その後、三十数年間空白の時間が経過した。昭和五十一年十一月二十八日には波佐文化協会の発起で『郷土の傑人顕彰板』を建立する。昭和五十三年十一月三日金城町歴史民俗資料館のオープンに伴い能海寛の遺品資料の寄託を受け『能海寛資料』として展示。昭和五十五年九月二十四日NHK松江放送局製作『島根人物伝・能海寛』（十五分番組）が放映される。昭和五十六年十一月三日波佐文化協会主催で『ラマの都チベット写真展』及び『世界の屋根ラマの都を尋ねて』講師・NHKプロデューサー上野克二氏による講演会を開催。昭和五十六年十二月能海寛顕彰会（会長・小森信一氏）を結成、町内外から多数の協力を得

カットを金城町歴史民俗資料館へ寄贈される。平成元年四月十五日佼正出版刊『西蔵求法伝『風の馬』』村上護著が出版される。同年十二月十五日波佐文化協会刊『チベット探検の先駆者・能海寛』隅田正三著を出版。平成三年三月三十日島根県広報協会刊・しまねPR読本『コンパス』で「人物・能海寛」が掲載される。平成五年三月一日山と溪谷社刊『西蔵漂泊』上巻・江本嘉伸著が出版される。平成五年十月二日堺市博物館主催「特別展・河口慧海Ⅱ仏教の原点を求めた人」において能海寛資料を公開。平成六年四月二十日山と溪谷社刊『西蔵漂泊』下巻・江本嘉伸著が出版される。

これら一連の顕彰運動による高まりで全国的に能海寛の名前と業績が浸透してきたことにより、次なるステップを波佐文化協会では協議研究を重ねた結果、全国組織とする「能海寛研究会」を結成して新たな『能海学』を構築しようとして平成六年十二月から全国に呼びかけ会員を募り、平成七年一月二十二日に能海寛研究会発会式にこぎつけ、順調にスタートを切ることができた。

能海寛の魅力は現在の我々に国際化・国際交流の原点のあり方について熱いメッセージを指針として伝えていることである。また数々の研究テーマを我々に提起してくれている。「東洋哲学」は元より「自然科学」、「人文科学」、「民俗学」、「地理学」、「中央アジア学」、「シルクロ

て翌五十七年六月六日に『能海寛師顕彰碑』が建立される。またフォトしまね第八十五号・郷土史夜話「チベット探検家・能海寛」隅田正三著が掲載される。昭和五十八年二月二十三日NHK松江放送局製作『知られざる先駆者Ⅱ探検家・能海寛』（三十分番組）放映される。昭和六十年から六十三年まで波佐文化協会発行の季刊『なわて』（七号、十五号）で「求道の師・能海寛」を連載し波佐地区の全世帯へ配布する。昭和六十一年八月三十一日能海寛新資料が大量（八〇〇点）に発見される。昭和六十二年三月二十日能海寛資料刊行会から『チベット探検の先駆者・能海寛』の絵葉書（八枚一組）が発行される。同年三月二十七日能海寛の足跡を訪ねるドキュメンタリー番組『中国大秘境』がフジテレビ系列で全国放映される。昭和六十二年六月二十五日東京大学出版会刊『チベット』上巻山口瑞鳳著を出版、能海寛が紹介される。同年八月二十二日波佐文化協会主催リーダー養成講座「波佐寺小屋セミナー」第九回講座で『能海寛と登用哲学』と題して山口瑞鳳（当時名古屋大学教授）先生より講演を拝聴する。昭和六十三年三月三十一日東京大学出版会刊『チベット』下巻山口瑞鳳著が出版される。同年五月一日から金城町歴史民俗資料館において『能海寛生誕一二〇年特別展』が開催される。同年十一月一日農民画家・池田一憲画「能海寛像」「能海寛師顕彰碑」と大佐山」など三点の油絵「馬に乗った寛師」など二点の

「ド学」、「チベット学」などの学習に意欲をそそのめるのである。次の「チベット探検の先駆者・能海寛」で能海寛の略歴を参照されたい。



能海寛研究会発会式の模様

(3) 長寿の里トータル・システムづくり

波佐文化協会では、昭和五十七年五月、波佐文化協会十周年記念講演会として「『とおりゃんせ』この道はいつか通る道Ⅱ」と題して京都堀川病院副院長長早川一光先生による痴呆症患者に対する学習をかわぎりに、長寿と福祉問題に取り組んで参りました。

引き続き、昭和六十三年一月にはリーダー養成講座『波佐寺小屋セミナー』第十二回講座において北里大学東病院副院長長古和久幸先生による『美しく老いるとは』と題して長寿の時代にいかに関心を美しく生きるかという問題を学習。平成元年十月には、ふるさとカルチャー『なわて塾』第五回講座において桑の木園理事長室崎富恵先生による

『長寿社会と福祉について』と題して学習。平成二年八月には『なわて塾』第十回講座において島根県社会福祉部高齢者障害者福祉課主査稲田節哉氏による『高齢化福祉社会に対する島根県の現況』を学習。また、平成三年三月には『なわて塾』一般公開フォーラム『観光&長寿福祉』としてリレートーク講演①『長寿社会に対応する生涯学習と町おこし』早稲田大学教授山本多喜司先生、②『長寿の世紀を迎えるに当たって』北里大学東病院副院長長古和久幸先生、③『長寿社会に対応する金城の観光』島根大学法文学

◎『長寿の里』づくりトータル・システム (ハード事業)《案》

- ① 恵まれた自然環境（「西中国山地国定公園」大佐山・雲月山）「登山道、ハイキング道の整備」
- ② 誇れる先人の文化的遺産（チベットの探検の先駆者・能海寛）「能海寛記念館」の建設、「能海寛の映画化」の推進、「能海寛評伝」の出版
- ③ 能海寛をキーワードとした「哲学の道」
「サイクリングコースの整備、サイクリング・ターミナルの建設、サイクリング教室の開催」
- ④ 自然観察と森林欲の森（波佐城山キャンプ場、波佐一本松城跡）「史跡遊歩道公園の整備、山岳オリエンタリングの整備」
「花木園・冒険の森の整備」
- ⑤ 縄文・弥生次代々古墳時代の全期間が学習できる（長田郷遺跡・七渡瀬Ⅱ遺跡・千年比丘一号墳）「千年比丘古墳公園の整備」
- ⑥ 日本最長第二位の畳石街道ハイキングコース（笠松峠の畳石路）「旧津和野街道・紙と黒鉄の道の整備」
- ⑦ 名水百選を活かした開発（常磐の名水、猿瀧の名水）
「佐竹の庭園で抹茶サービス、猿瀧の遊歩道整備」
- ⑧ 淡水魚の女王・ヤマメの里に新淡水魚（カナメ）誕生（町の特産品に）「ヤマメ釣り堀センターの周辺整備」
長寿の里トータル・プランの建設
- ⑨ 「ライフ・ケア型有料老人ホーム」の建設、老人保健施設の整備、保健センターの建設

部教授内藤正中先生による学習を実施。

これらの一連の学習の成果を受けて「なわて塾」専門部会において「長寿の里トータル・システムづくり」の地域活性化企画書を作成した。詳しくはⅡ2(3)を参照されたい。なお、これら一連の長寿福祉学習活動が認められ、平成二年十月二十八日には金城町社会福祉協議会から感謝状が伝達された。



金城町社会福祉協議会より感謝状

- ⑩ 自然環境を活かしたセカンド・ハウス（ログ・ハウス）を「ログ・ハウス村」の建設Ⅱ広島市の大手企業を対象に」
- ⑪ 滞在型観光開発のため宿泊施設・駐車場・食事処の整備
「県境の道の駅「かなき」の建設、サイクリング・ターミナル（サンクリング・ロードの整備）」

◎ 整備済みの施設

①金城町民俗資料館、②金城町歴史民俗資料館、③エクス和紙の館、④天頂山浄蓮寺と能海寛師顕彰碑、⑤常磐山八幡宮と大杉五本とカシ林遊歩道、⑥波佐城山キャンプ場、⑦笠松峠の畳石路、⑧速田神社、⑨大蔵神社、⑩波佐一本松城跡、

◎ ソフト事業について

- ・ 能海寛を顕彰した『日本冒険賞』の創設
「能海寛杯の創設」
- ・ 中央アジア(中国・チベット・シルクロード)及びチベット学会などとの交流
- ・ 「チベット自治区、寧夏回族自治区、雲南省、四川省等との都市交流、能海寛記念館に中国西域研究室の設置」
- ・ 大学キャンパスとの交流
「早稲田大学、東洋大学、慶応義塾、広島大学、島根県立国際短期大学」
- ・ インターネットによる知的国際交流
「『能海学』の構築と情報交流」

3 参加創造型学習を求めて

(1) 哲学の道、文学の散歩道の創設

東洋哲学を学びチベット探検に旅立った郷土の偉人である能海寛の故郷、波佐地区に、彼の業績を顕彰してゆかりのある施設をネットワークする「哲学の道」散歩コースを創設。

また、日本近代劇の創始者である島村抱月の業績を顕彰して「島村抱月生誕地顕彰の杜」、「島村抱月文学碑」、「島村抱月先生の碑」などを中心にした「波佐く小国く久佐く今福く美又」をネットワークする「島村抱月文学散歩道」の創設。を提唱することとなった。

この「哲学の道」と「文学の道」散歩道コースは「なわて塾」専門部会で研究を重ねてきたもので、後段のⅢ1(1)の項に「ふるさとカルチャー『なわて塾』地域活性化企画書」に詳細を掲載しているのでご覧ください。

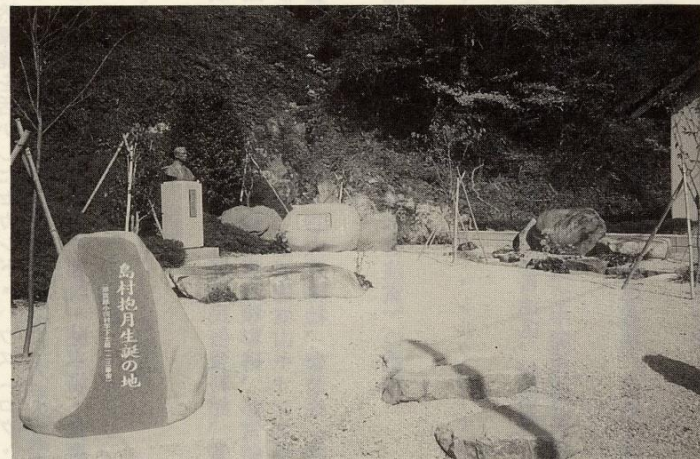
波佐文化協会は、二十五年間一貫して生涯学習による町起こしの実践として、能海寛と島村抱月の顕彰運動を推進して参りました。金城町が今後、この二名の偉人をどのように活用するかで町の将来が、光り輝き、グレイド・アップするかに掛かっています。民間での活動にはどうしても、限度というものがあります。どうしても、行政の支援によ

(2) 山岳オリエンテーリングでの城郭学習

波佐城山キャンプ場周辺を利用した山岳オリエンテーリングを模索して金城町オリエンテーリングクラブの支援を受けてオリエンテーリング地図の作成と実地体験も行った。サマーキャンプのメニューに組み入れ波佐城山キャンプ場を中心とする高低差一〇〇メートルの地域で山岳オリエンテーリングを実施した。PTAの組織キャンプで大人から子供まで一体になって実施。城山キャンプ場をスタート地点として長田地区内へ一〇のチェックポイント地点に競技用ポストを設置し、ゴールは勿論城山キャンプ場までと設定。地図とコンパスで目標のポストを捜しだして、通過した印しを競技用のペーパーに穴を開けて持ち帰る競技である。時間と正確性とメンバーの一体性が必要の競技である。

オリエンテーリングの実施が可能であるという結論がでたので、後は山岳を利用した山岳オリエンテーリングと名打って波佐一本松城跡と水見城の城郭を中心としたコースで遺跡の学習を兼ねてオリエンテーリングをやればなお宜しいと考えられるのである。

る二人三脚でないとこれ以上の推進は不可能です。社会教育活動にも温かい支援の手を伸ばしてください。



島村抱月生誕の地（金城町小国・下土居）



波佐城山キャンプ場

(3) ホックリングで自然散策と文化財学習

波佐の自然を満喫しながらオリエンテーリングの競技そのものをサイクリングとミックスしたスポーツを導入しようと考えたことがあった。

このスポーツをホックリングという。自然を満喫しながらサイクリングを楽しみながらチェックポイントのポストを通過してゴールにたどり着くスポーツである。

波佐地区は歴史・文化財の学習に相応しい環境にあり、サイクリングロードの整備が必要であるため、自転車道路協会からの支援を受けてサイクリングターミナルの事業導入をするよう町への陳情要請を行った時期もあったが実現をみなかった。

波佐地区はエクス和紙の館周辺を拠点として自転車の貸出によるサイクリング周遊コースのメニューが組める。

エクス和紙の館⇩金城町民俗資料館⇩金城町歴史民俗資料館⇩天頂山浄蓮寺・能海寛頭彰碑⇩千年比丘古墳⇩常磐山八幡宮・えぞ守郷土自然城「常磐のカシ林」・常磐のアシオスギ⇩普明山永昌寺・尼子經久公の墓⇩やまめ釣り堀センター・焚火「カナメ」⇩笠松峠の石畳路。

このコースは往復で一〇キロの距離があり歴史・文化財・自然環境学習に打ってつけである。

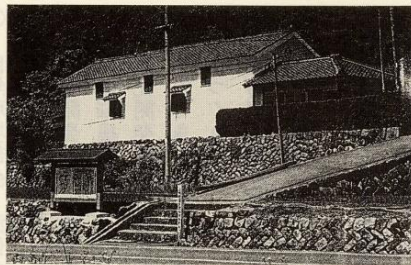
(4) 今後の課題

自然を活かした観光資源の開発は二十一世紀では必要視されるであろう。自然環境を損なわない開発が望まれるのである。波佐地区は地域全体が学習教材で一杯である。

七渡瀬Ⅱ遺跡では旧石器時代のチャートが出土しているけれども、旧石器と称される遺物はまだ出土していない。

しかし、縄文時代(七渡瀬遺跡・長田郷遺跡・横ヶ曾根遺跡)、弥生時代(七渡瀬遺跡・長田郷遺跡・ナゴダ遺跡)、古墳時代(千年比丘一号墳)、奈良時代(長田郷遺跡・城ノ前遺跡・アシノ木遺跡)、平安時代(七渡瀬遺跡)、鎌倉時代(波佐一本松城跡)、南北朝時代(波佐一本松城跡)、室町時代、戦国時代(波佐一本松城跡)、江戸時代(笠松峠の石畳路・馬場鉄穴遺跡)と全てに繋がる遺跡の宝庫でもある。このことから、遺跡などを中心とした次のような学習メニューが組める。

- ① 埋蔵文化財の学習。
- ② 波佐地方の歴史の学習。
- ③ 民俗資料館で民俗文化財の学習。
- ④ 波佐一本松城跡・水見城跡で中世の山岳城郭の学習。
- ⑤ 能海寛を主体とした「能海学」と中国西域の学習。



金城町歴史民俗資料館



ハイキングに最適な大湊山(西中国山地国定公園)

- ⑥ 大湊山の山ツツジの群落・柏の群落、大佐山ハイキングによる自然観察の学習。
- ⑦ 民俗資料館の紙漉き用具とエクス和紙の館を併用した紙漉きの学習。
- ⑧ 「常磐山のカシ林」、「アシオスギ」など八幡宮周辺で天然記念物の学習。自然観察会。
- ⑨ 歴史民俗資料館で「たたら」の学習。
- ⑩ 波佐川で魚族・水性昆虫の自然観察の学習。
- ⑪ 常磐山八幡宮で絵馬額の学習。
- ⑫ 民俗資料館で民具の比較研究の学習。



「常磐山のカシ林」案内板(H4. 12. 6・自然観察会)

住民の自己教育力の育成

- ① ふるさとカルチャー「なわて塾」の開設(2年間)。
- ② 第二次「なわて塾」の開設(6年間)。
- ③ 観光パンフの発行(B5版判16P、カラー写真85点、5000部印刷)。
- ④ 金城町カルチャークラブの結成を呼びかけ「金城町総合美術展」を8年間開催する。
- ⑤ 「常磐のカシ林遊歩道」の整備事業推進。
- ⑥ 「島村抱月文学散歩コース」の策定。文化協会の企画提案により、金城町で案内看板を12箇所設置。
- ⑦ カシ林で自然観察会を開催。
- ⑧ 知的国際交流の推進(中国寧夏回族自治区銀川市)

ふるさとカルチャー『なわて塾』
地域活性化計画書

観光&長寿福祉

(提案者) 波佐文化協会

§ 「観光と長寿福祉」に対する提言

人生五十年時代から八十年時代へ移行し、急速度に高齢化社会に向かってスピードをあげている日本は、諸外国と比較しても、六十五歳以上の老年人口の占める比率は西欧諸国より二・三倍の速さで進捗している。あと十五年もすると先進国で最も高齢化の進んだ国に変身するといわれている。

その一つは、人口の増加が止まる一方、長寿化が進んで年齢構造が急速に高齢化するからである。二十一世紀には二十五%にも達するといわれている。三世帯世帯で老親の面倒をみる私的扶養世帯と社会的扶養を受ける世帯の公平性と逆真性において深刻な問題を投げかけるであろう。

しかし、全国で平均して、高齢化が進捗するのではなくて、過疎地域に偏って進展していくことに注目しなければ

奇しくも金城町には能海寛、島村抱月の二人の日本を代表する偉人が生誕している。金城町民の誇りであり、何物にも変えられない観光資源である。

金城町の恵まれた自然環境の元で「能海寛哲学の道サイクリングコース」、「島村抱月文学の道散歩コース」は、どこの町村にも真似ることのできないシステムであり、今、金城町を挙げて取り組みをヒットするプログラムである。

ロマンと誇りのある町、金城町は「観光と長寿福祉」をトータルに機能させることによって有機的に相乗効果を発揮するであろう。

平成元年二月から、ふるさとカルチャー「なわて塾」の四部会（自然環境、特産開発、観光開発、長寿医療福祉）において専門部会を設けて研究を重ねてきた。これらの四部門が有機的に機能して、初めてロマンと誇りのある町となりえるであろう。

これらを総合して「観光と長寿福祉」について次の三項目を別紙のとおり企画提言をする。

- 一、「能海寛哲学の道サイクリングコース」の企画設定
- 二、「島村抱月文学の道散歩コース」の企画設定
- 三、「長寿の里トータル・システム」のモデルプランの

企画設定

「住みたくなる町づくり」こそ二十一世紀に向けての

ならない。

今、一人の老年人口（六十五歳以上）を何人の生産年齢人口（十五〜六十四歳）で養うかと数値で見ると一九八二年に七・一人が二〇〇〇年には四・三人、二〇二〇年には二・八人に減少していくというデーターを見ると、地域格差が伴ってくるとますます深刻な問題となってくる。

このためにも、個々において高齢者は健康で生きがいを見いだす仕事、たとえば、地域の特産品の開発、青少年へ伝承文化の継承、年金受給者が、こぞって自分の出来る範囲において、近隣の寝たきり老人を介護するボランティア活動の福祉バンクなどの活動が考えられる。

地域社会においては老人福祉や老人医療の充実を図りトータル・システムづくりが要求される。かたや、予防医学、予防医療の学習を住民自らが実践していかなければならない。

公的においては、三世帯住宅の建設の推進、農村への若者の定住志向を定着させるための高速交通システム、高度情報通信システムの進展によって官公庁、大学、企業などの地方分散で中核地方都市圏を全国各地で形成させ田舎から通勤でき三世帯同居ができるシステムづくり。

金城町のスローガン『心豊けく住みたくなる町』こそ「福祉の里」に相応しいスローガンといえよう。

「心豊けく」とは、精神面を表現しているのだろうか。

『長寿の里トータル・システム』といえるのではなからうか。

(提案者) ふるさとカルチャー「なわて塾」専門部会

☆☆☆☆



傍示峠の遠望
(相時より)



こども神輿
(秋祭り)

ふるさとカルチャー「なわて塾」
地域活性化企画書

①「能海寛哲学の道」サイクリングコース

金城町が生んだ世界の探検家・能海寛は、東洋哲学の探求のため一身を投じた求道の精神は今日に大きく示唆を与えている。能海寛の収集した数々の資料は世界的にも希少で貴重な資料が多く含まれている。温・湿度管理を含めて今の時点で保護しておかなければならない現況である。

一日も早く「能海寛記念館」を建設して、世界的な資料を守らなければならない。

併せて、地域活性化へ向けて、現在ある既存の観光施設を結んだ「能海寛哲学の道サイクリングコース」を企画設定する。

- (1) 金城町歴史民俗資料館（能海寛の資料を展示。併せて抱月の資料を展示。又石見地方における唯一の「たたら関係資料」を展示。昭和四十七年十一月にオープン）
- (2) 金城町民俗資料館（能海寛の過ごした当時の民俗資料を展示。特に国指定重要有形民俗文化財七五八点、県指定有形民俗文化財二二一点は当時の石見地方の山間部農村の生産、衣食住生活を知る上で貴重な資料である。昭和五十三年十一月にオープン。）

した。）

- (9) エクス和紙の館（能海寛は記録魔とまでも言われるほど生涯に亘って楮半紙に記録を書き残している。和紙の館では、自分の漉いた和紙を二十分でお持ち帰りができる。エクス和紙の館をスタートの起点とし、最終ゴール地点としたほうが作品の受け取りなどでより効率的である。）

これらの九箇所を結ぶ「哲学の道サイクリングコース」にスタンプ・ボックスを設置し、見学者に便利をはかる。これら九箇所の観光施設は全て完成しているので、次の事項を整備する必要がある。

- ◇ 各施設への案内用の看板類の整備。
- ◇ 駐車場の確保、公衆便所の設置。
- ◇ 総合パンフレット類の作成。
- ◇ スタンプ・ボックス等の設置。
- ◇ 「サイクリング・ターミナル」の設置。
- ◇ 将来は「能海寛記念館」を建設して、チベット、チベット学会、東洋大学などとも連携して資料の充実をはかる。

◇「能海寛」の映画化を推進する。

（提案者） ふきみち「なわて塾」専門部会

SSS SSS SSS

- (3) 郷土の傑人顕彰板（金城町民俗資料館庭に建立し能海寛と島村抱月の略歴を表示。昭和五十一年十一月にオープン。）

- (4) 能海寛生誕地「浄蓮寺」&能海寛顕彰碑（総ケヤキ造りの寺院建築として重要建造物である。顕彰碑は地元波佐産の花崗岩大小一〇〇個を使用して昭和五十七年六月に建立。）

- (5) 千年比丘古墳（能海寛の郷土研究に表されている地名で丘陵上に四メートル方形の経塚、四世紀前半の円墳、竊跡などがある。）

- (6) 波佐一本松城跡（能海寛が青年期によく訪れていた所で、旧波佐八景で和歌に詠んでいる。複雑な畝状空堀があるこの城山は全国的にも屈指の中世の山城で、山岳城郭を学習するに最適である。）

- (7) 常磐山八幡宮（旧波佐八景で能海寛が八幡宮や神楽の和歌を詠んでいる。裏山に島根県指定天然記念物（県下一番）の天然性の大杉が五株ある。また、的場（野外の弓道場）もある。神楽殿には絵馬額が沢山展示されている。）

- (8) 笠松峠の石畳路（能海寛が青年期に、弥栄村への法務の折りに、この石畳路をよく通行した。全国で箱根町に次いで第二位の一八〇〇メートルの距離の石畳路である。ハイキングコースとしても最適である。文化八年に完成

ふるさとカルチャー「なわて塾」

地域活性化計画書

② 島村抱月文学散歩コース

金城町の生んだ文人「島村抱月」は自然主義理論を展開して評論家・小説家・劇作家として活躍した。特に日本近代劇の創始者として全国津々浦々を始め海外にまで遠征し新劇の普及発展に貢献した。多くの友人に改革の指針を与えた。今日「抱月なからば、この人なし」とまで言われる所以である。

抱月生誕一二〇年を迎え、記念すべき今年こそ抱月を顕彰して抱月関連企画を実施することがより効果が上がるであろう。「なわて塾」専門部会での地域活性化企画を次のとおり提案する。

- (1) ☆エクス和紙の館（金城町波佐し抱月をモチーフにした記念色紙が手作りできる。）

◎ 抱月散歩コースのガイドブック（五〇〇円程度）記念メダル代を含む）を購入。このガイドブックには、抱月資料を満載する。☆印の箇所に記念スタンプ・ボックスを設置して、八箇所スタンプが押印済みの人には、最終地点の美又温泉国民保養センターで抱月文学

散歩コース完走記念キーホルダー（記念刻印付き）が受領できるシステムとする。

- (2) ☆金城町歴史民俗資料館（抱月ゆかりの資料を展示。）
- (3) 郷土の傑人顕彰板（金城町民俗資料館庭）
- (4) 田野原鐘跡（抱月一家が働いていた鐘場Ⅱ金城町小国）
- (5) 大和鍛冶屋跡（抱月の父母が一時働いていた場所Ⅱ金城町小国）
- (6) ☆抱月の生誕地「下土居」（抱月一家の居住地Ⅱ金城町小国）抱月生誕の杜。
- (7) 「中屋の屋敷町」（抱月幼年期の仮宅跡Ⅱ金城町小国）
- (8) 「正念寺」（抱月の通った小国小学校の前身の寺小屋Ⅱ金城町小国）
- (9) 「光超寺」（抱月の父一平終焉の地Ⅱ金城町小国）
- (10) ☆浄光寺&佐々山家（抱月）の墓（佐々山家の旦那寺Ⅱ金城町久佐）
- (11) ☆小原谷「熊屋」（金城町久佐での住居Ⅱ文学作品「故郷の父」の舞台）☆抱月文学碑（「故郷の父」の一節の碑文）を建立する。
- (12) ☆久佐八幡宮（抱月の通った久佐小学校Ⅱ金城町久佐）
- (13) 白甲鐘（弘化年間佐々山一家の居住地Ⅱ金城町久佐）
- (14) 佐々田庄屋（金城町久佐）
- (15) 隆興寺（金城町久佐Ⅱ佐々田庄屋の菩提寺）
- (16) 島村抱月先生の碑（金城町今福Ⅱかなぎカントリーーク

電話の一本足ボックス程度のもので、スタンプは写真サービスサイズ判程度の大きさのもの）

◇抱月文学散歩メダル（キーホルダー付き）五〇〇〇点
（完走した人のみへ日付の刻印サービスの上、贈呈する。メダルは抱月の顔をデザインしたもの）

② 完成後のメリットとして考えられるもの

◇交通公社が「抱月文学散歩ツアー」を企画募集したときに一泊二日の滞在型観光が招致できること。

◇将来「抱月ホール」が完成するまでに抱月を広くPR顕彰するために効果がある。

◇波佐にきた観光客を美又温泉まで繋げることができ

る。

◇観光客の来町で各地の特産品の開発に拍車がかかる

◇町の中心部のみの開発では住民の観光受け入れ意識が高揚できないので、抱月の里グリーンパーク構想に先立って開発されるほうがよりメリットが上がる。

◇将来は、小泉八雲（松江市）↓島村抱月（金城町）↓森鷗外（津和野町）の県内「文学散歩ルート」づくりも考えられる

（提案者）ふるさとカルチャー「なわて塾」専門部会

SSSS SSSS SSSS

ラブ）

(17) ☆美又温泉国民保養センター（金城町追原）

◎八箇所の記念スタンプ押印済みを確認して完全通過記念として「抱月文学の道散歩記念キーホルダー」に刻印をして手渡す。

◎逆コースをとる場合は、美又温泉国民保養センターで抱月資料を買い求めて、波佐のエクスと紙の館で記念メダルを受け取る。

◎抱月文学散歩コースを媒体とした観光客（特に若者のニーズに合ったもの）の受け入れ体制を整え町内へ滞在して観光してもらう方策として次の整備事業をされる必要があると思われる。

① 文学散歩コースの看板類等の整備事業

◇大型看板 四点（美又、金城カントリーークラブ、波佐、大佐スキー場）（金城町の全体像を表すもの）

◇文学散歩コース標示板 十七点（前記十七箇所）
（一定規格のもので統一する）

◇コース案内板（次へ何km、あと何km）（一定規格のもので統一する）

◇抱月文学碑 一基（金城町久佐「熊屋」）（「故郷の父」の一節を碑文にする）

◇抱月文学散歩記念スタンプ及びスタンプボックス八点（☆いんのかのもの）（スタンプボックスは公衆

ふるさとカルチャー「なわて塾」

地域活性化企画書

③ 「長寿の里トータル・システム」

金城町の恵まれた自然環境を活かした「長寿の里づくり」は、これから二十一世紀を迎えるための、一つのモデルプランを想定したトータル・システムとして総合的に機能しなければならぬものである。

経済的困窮を救済するための福祉は無料の時代から、現在は年金の成熟によって老人、心身障害者など年金受給者は相当額の年金を受けるようになり、有料のサービスを受け入れられる状況になってきた。

社会福祉の受益者一部負担、又は有料のサービスに移行している今日、施設福祉対策としての入所ケア・サービス、老人保険施設、ライフ・ケア型有料老人ホーム等の充実や在宅福祉対策としての要援護老人対策（老人クラブ活動の援助）を有機的に活用しなければならぬ。

金城町において「長寿の里トータル・システム」として次の点が考えられる。

(1) 施設福祉対策

◇ライフ・ケア型有料老人ホーム（高齢者専用の民間住宅団地）の建設。

◇老人保険施設（治療、リハビリのできる長期ケア施設）の建設。

◇リハビリテーション病院の建設（温泉の利用など）

◇保健センター（公民館併設で住民の予防医学の充実を図る）の建設。

これらをトータルに建設することによって医療面で安心した生活を送ることができる。

(2) 在宅福祉対策

◇シルバーボランティア活動の推進（独居老人宅への愛の一声運動）

◇福祉バンクの創設（近隣の独居老人の訪問看護、手伝い）

(3) 予防医学・予防医療

◇公民館活動として予防医学、予防医療を学び、生涯学習体制を醸成する（視聴覚教材を用いた学習の推進）

◇食生活と食文化の見直しの学習をする（成人病の予防のための食生活をする）

(4) 老人の生きがい対策

◇公民館事業としてボランティア学習のメニュー化（ボランティア・リーダーの養成を含む）

◇特産品の開発、製作（動物やエト十二支を創作した和紙面の製作。減反にダイズを作り、味噌に加工販売。とくそ粗綱の再活用で商品化を図る。など）

この企画書を基に、次のような要望書を平成四年一月に金城町長あてに提出した。

金城町町長 三浦兼之殿
西女 望 書

町ご当局には、平素より社会教育活動に対し、ご高配にあずかり感謝いたしております。

さて、金城町のスローガン「心豊けく住みたくなる町づくり」の推進については、私たち住民も平素心して取り組んでいるところであります。昨年三月に「なわて塾」において研究討議して参りました次の項目につきまして、平成四年度事業として是非とも予算措置を戴きますよう「なわて塾」を代表して要望いたします。

要 望 事 項

一 「島村抱月文学の散歩道スタンプラリー」の創設

- ・抱月文学散歩の葉（カラーB5判・五十ページ）
- ・スタンプラリー通過記念品（キーホルダー）一万個
- ・スタンプボックス（一本足の電話ボックス風）五基
- ・ラリー用スタンプ（ゴム印・五個分）五個

（金城町歴史民俗資料館・抱月生誕地顕彰の杜・浄光寺&抱月の墓・抱月文学碑・島村抱月先生の碑）

（理由）

抱月生誕一二〇年を記念して抱月関連の顕彰が町内各地

◇抱月をネイム化した特産品の開発（品名の頭に抱月の名を入れる）

◇観光案内のボランティア（熟年期のゆとりを活かしたボランティア活動）

◇地域の児童に伝統芸能などを積極的に継承する。

◇人材バンクの登録（自分の特技を公民館へ登録しておき、活用する）

(5) 高齢者のための住・地域環境の整備

◇日本家屋のトイレ、風呂など障害のある老人には使にくいので新築する場合や既存の住宅を改造する場合は高齢者が住むということを念頭にに入れて設計する。

◇今後の公共建築には、高齢者、障害者の利用を考慮した設計が必要である。

◇地区ごとに農村公園の整備と年中花のある町づくり。

(1)については、行政サイドで(2)(3)(4)(5)については、行政と住民サイドの相互支援で実現可能なものである。

福祉の町づくりの基本理念は金城町社会福祉協議会において昨春秋に策定された『高齢者対策基本構想』うるおいの里づくり』に沿って支援体制を整えていかなければならない。

（提案者）島村抱月「なわて塾」専門部会

☆☆☆☆☆

で実行され、これらの一連の施設整備が整った今日、抱月をキー・ステーションとした観光開発を図り、町外からの観光客の受け入れを推進して波佐・小国・久佐・今福・美又を結ぶルート上の地場産業の振興に寄与し、活性化を図る為に是非ともスタンプラリーの創設を推進していただきたい。

二 「能海寛・哲学の道サイクリングコース」の創設

- ・サイクリング・ターミナル 一棟
- （収容人数八〇〇〜一〇〇〇名の宿泊施設）
- ・サイクリング・ロード 四五〇〇M
- （全長ほぼ既存の道路を使用・舗装を一部要する。
- ・サイクリング用自転車 一五〇台
- （マウンティング・バイクも含む）

・自転車収納庫

・コース案内標識及びパンフレット 一式

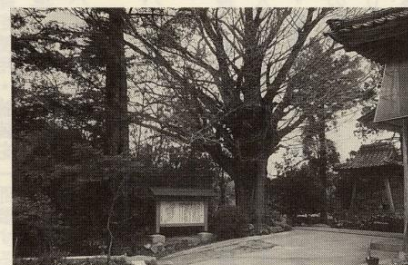
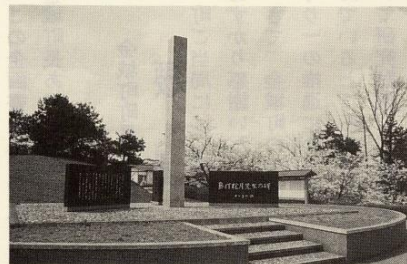
（理由）

能海寛とゆかりの深い施設（金城町民俗資料館・金城町歴史民俗資料館・郷土の傑人顕彰板・能海寛顕彰碑・千年比丘古墳・波佐一本松城跡・常磐八幡宮・笠松峠の石畳路・エクスと紙の館）を「哲学の道サイクリング・コース」に組み込み地域の活性化に役立ててください。

以上、要望の主旨をご賢察の上、ご理解を賜り、早急に



島村抱月の胸像と略年譜



町内に設置された『抱月文学散歩コース』の案内板

ご着手いただきますよう、なわて塾（波佐文化協会主宰）
を代表して要望申し上げます。

平成四年一月

波佐文化協会

会長 隅田正三

☆☆☆☆

本件は、文化協会が提唱した「抱月文学散歩道コース」
に平成四年度～五年度事業として、抱月文学散歩道コース
に「看板」及び「標柱」の設置がなされました。

観光パンフの発行



B5判カラー版16P 5000部印刷

第二次「なわて塾」

平成3年10月～6年3月

(2) 第二次「なわて塾」の開設

平成三年十月には、第二次なわて塾を募集した。第二次なわて塾は『観光と福祉問題』をより具現化する方向づけをしたと考え、行動力のある頭脳集団を募集し「明るい住みよい金城づくり」を実行するといふものです。

【開塾目的】

今年の三月、一般公開フォーラム『観光と長寿福祉』を実施して、「観光と福祉」について三項目の提言を行ってしました。

この度、第二次ふるさとカルチャー「なわて塾」を開設して、前回の提言を元に『観光と福祉問題』をより具現化する方向づけをして行く頭脳集団を目指して開塾します。

【募集期間】平成三年十月二十五日～十一月十日

【募集定員】二十名。

【会費】月額一〇〇〇円

【開塾期間】平成三年十一月～平成五年三月(毎月開催)

【塾内容】自然環境、特産開発、観光開発、長寿医療福祉を基本に『観光と福祉』を重点に研究討議、提言、先進地視察及び交流会をもって推進します。具体的には、公開フォーラムで提言した①能海寛哲学の道サイクリングコース

②島村抱月文学散歩コース ③長寿福祉の里 トータル・システムを中心に『観光と福祉』について具現化の方向で推進します。
【その他】先進地の視察等については別途特別会費で対応します。

一回講座(平成三年十二月)

開塾式

島村抱月文学散歩道スタンブラリーの企画について

二回講座(平成四年一月十一日)

『山焼き』で特産開発の振興を。

統一された観光案内標識の整備について。

三回講座(平成四年二月八日)

観光写真の作成について。

名水の比較試験テストについて。

四回講座(平成四年三月七日)

長寿の里・総合整備事業の導入について。

畑焼きでソバづくりを

五回講座(平成四年四月十一日)

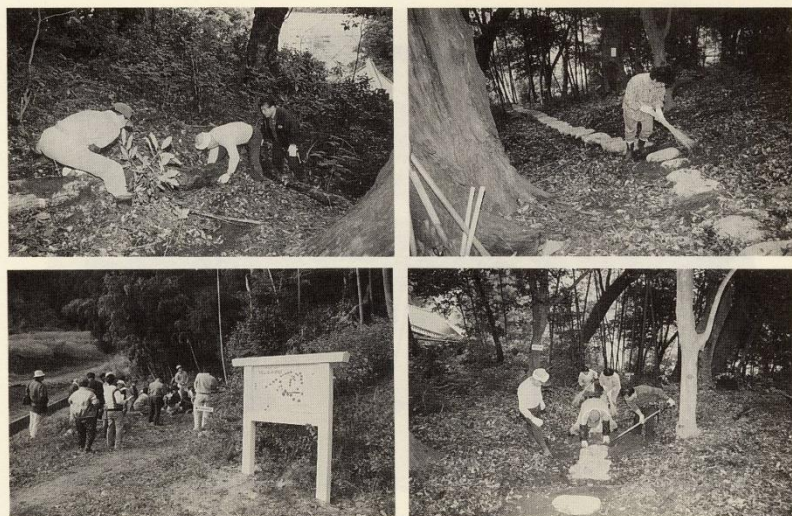
総合開発整備計画の作成について。

有料パンフレットの作成について。

六回講座(平成四年五月九日)



観光パンフレットの作成



常磐山のカシ林整備事業

第3次「なわて塾」

研修旅行の実施（三次市、東城町、八千代町方面）

七回講座（平成四年六月十三日）

観光ビデオ及び有料観光パンフレットの作成。

「能海寛記念館」建設運動の推進。

八回講座（平成四年七月十一日）

観光ビデオ及び有料観光パンフレットの作成。

「能海寛記念館建設」運動の推進。

九回講座（平成四年八月八日）

観光ビデオ及び有料観光パンフレットの作成。

「能海寛記念館」建設運動の推進。

十回講座（平成四年九月十二日）

「常磐山のカシ林」遊歩道の整備について。

観光写真の作成について。

十一回講座（平成四年十月十七日）

「観光パンフレット」の最終調整について。

波佐の泉源探査について。

十二回講座（平成四年十一月十四日）

『常磐のカシ林』自然観察会の開催について。

十三回講座（平成四年十二月十二日）

（仮）金城町総合美術展の開催について。

猿瀧の遊歩道の設置について。

十四回講座（平成五年一月九日）

「金城町総合美術展」の企画について。

「能海寛記念館」の建設促進について。

十五回講座（平成五年二月十三日）

日本探検賞（「能海寛杯」）の創設について。

国道「道の駅」の誘致について。

「波佐一本松城跡」周辺の遊歩道整備と案内

標識の設置について。

十六回講座（平成五年三月十三日）

「観光モデルコース」の環境整備について。

☆☆☆☆

その後も一年間継続して第三次「なわて塾」を平成六年

三月まで主宰して、九カ月間の準備期間を置き平成七年一

月には波佐文化協会が呼びかけ人となり「能海寛研究会」

が全国組織へと発展していった。

十七回講座（平成五年四月十七日）

「観光モデルコース」の環境整備について。

十八回講座（平成五年五月八日）

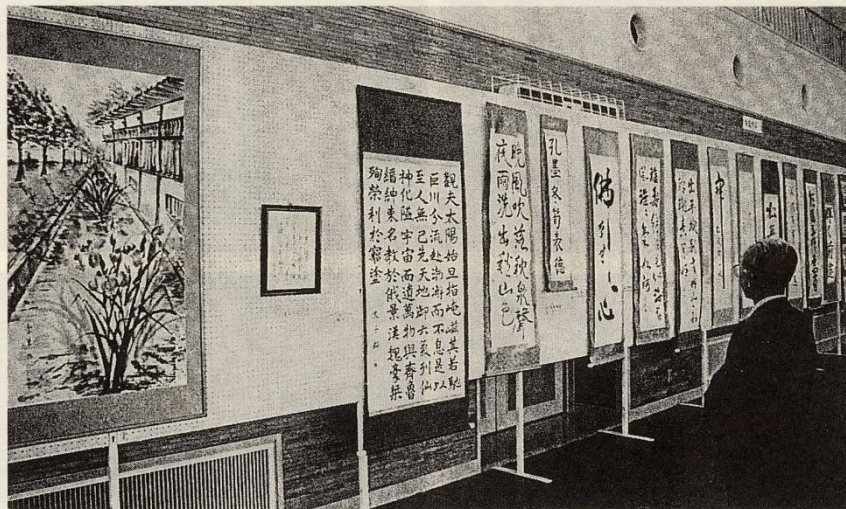
『道の駅』構想の具現化について

十九回講座（平成五年六月五日）

観光ビデオの作成について

「波佐一本松城跡」周辺の活用について

二十回講座（平成五年七月十日）



毎年開催される「金城町総合美術展」の様相



常磐山のカシ林の様子

出雲路研修旅行の実施について

二十一回講座(平成五年八月二十一日)

先進観光資源活用状況調査旅行(松江市・安来市・頓原町・赤来町)

二十二回講座(平成五年九月十一日)

文化祭参加作品の作成について

「能海寛記念館」建設運動の展開
遺跡発掘調査の結果と活用

二十三回講座(平成五年十月十六日)

『なわて塾』ふるさとを語る討論会

「みんなで提案みんなの企画」

- ・金城町の自然環境を活用する方策
- ・歴史的遺産(文化財)を活用する方策
- ・潜在型観光を取り入れる方策
- ・公園の整備で事前にかんがえなければならぬ方策

・先人の業績顕彰と観光への反映の方策

・源泉開発(波佐温泉の可能性と方向づけ)

二十四回講座(平成五年十一月十三日)

「波佐の観光絵地図」の作成について

二十五回講座(平成五年十二月十一日)

「波佐の観光絵地図」の作成について

二十六回講座(平成六年一月十五日)

『中国地方の道の駅』県境の駅として

講師陣「中国地域づくり交流会道の駅部会」

花輪・迫田・中倉の三氏(スライド・ビデオ併用)

二十七回講座(平成六年二月十二日)

「能海寛記念館」の推進について

二十八回講座(平成六年三月十二日)

「能海寛記念館」の推進について

「なわて塾」の取りまとめ「金城町を良くするために」を別紙により問題点などを取りまとめた。

☆☆☆☆

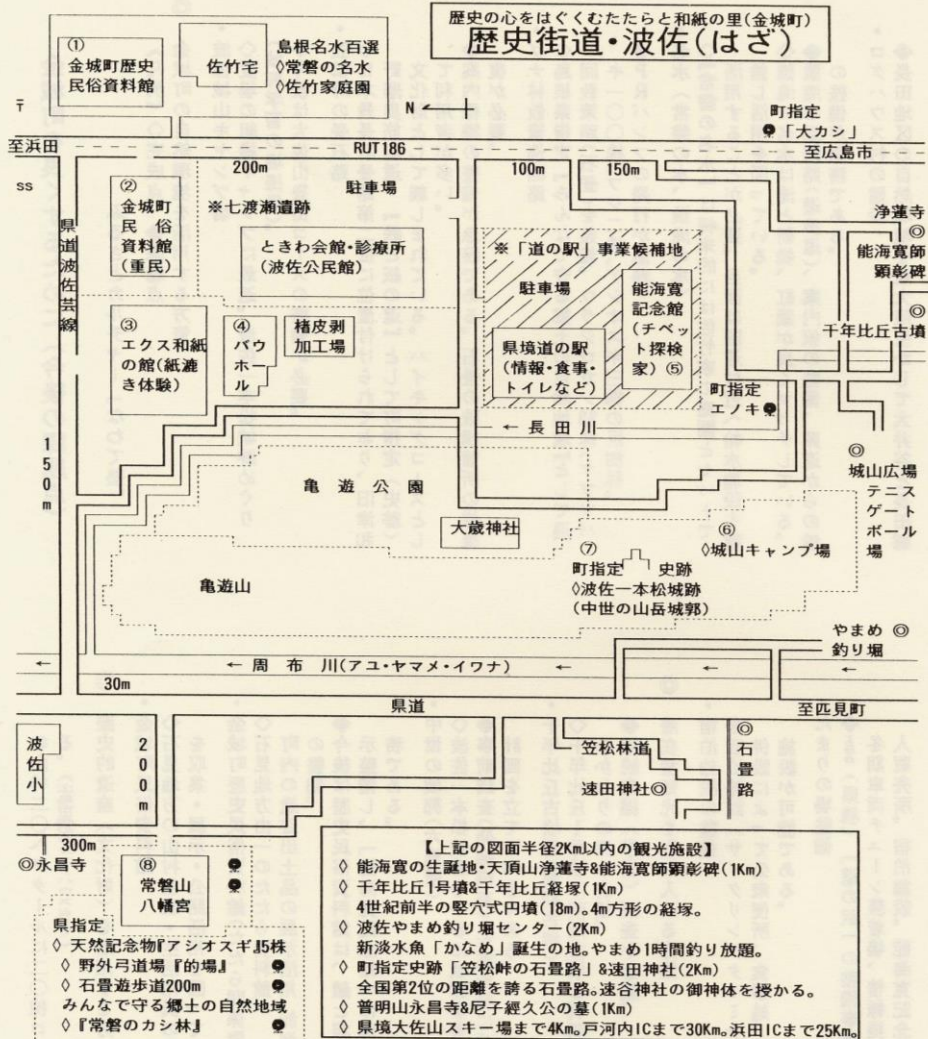


「道の駅」の誘致についての学習会



能海寛研究会での江本嘉伸氏講演の様様(1995. 7. 16)

「道の駅」概念図（案）



- ①金城町歴史民俗資料館：石見地方唯一の「たたら関係（製鉄）資料」。創らた古文書。二丁ふいご鑑展示。埋蔵文化財（縄文・弥生・古墳・奈良・中世の出土品）。産物抱月資料。能海渡資料。
- ②金城町民俗資料館：国指定重要文化財「波佐の山村生活用具 7 8 点」（紙漉き用具は全国的に希少）。島根県指定有形民俗文化財「波佐の山村生活用具 2 2 1 点」など 2 5 0 0 点展示。いろりの間・楳葉の移築展示。
- ③エウス和紙の館：石州半紙（楮半紙）の手作り「体験紙漉き」が即日（創作品が 30 分で持ち帰れる）。
- ④バウホール：和紙人形紙漉き工程を展示。和紙を活用した作品展（ちぎり絵・書道・版画・切り絵など）。
- ⑤能海渡記念館（予定）：チベット資料・中央アジア資料・シルクロード資料。チベット探検家・冒険家・東洋哲學家・思想家資料。日本登山家資料など展示予定。
- ⑥波佐城山キャンプ場：竹林に囲まれたキャンプ場（管理棟・牧事場・便所・フィアール場・展望台 150 名収容）
- ⑦波佐一本松城跡：鎌倉期から戦国時代まで活用した除陽要の城郭。堅畠形阻害。軍用水路跡。県内屈指の中世城郭。

【道の駅事業について】

自動車社会を反映して建設省が許認可する「道の駅」事業は、「道の駅」の周辺地域住民の利活用を主体とし、もつて「道の駅」利用者に憩いと潤いの場を提供するサービスエリアである。もしも、波佐地区に「道の駅」が設置された場合を客観的に考えてみると、「道の駅」としての理想的な立地と周辺施設が既に完備している点では「道の駅」のモデルケースとなり得るであらう。県境の「道の駅」として、陰陽最短ルートの駅（休憩所）として、冬場のチェーインの装着場として、県道芸北線の分岐点としての地の利を得ている。

周辺施設としては、金城町民俗資料館（国・県指定有形民俗文化財）、金城町歴史民俗資料館（たたら資料・能海寛チベット文獻・島村抱月資料・埋蔵文化財）、エクス和紙の館（紙漉き体験）、天然記念物アシオスキ五株（県下一番の大きさ）、八幡宮の絵馬（大型）、常磐山のカシ林遊歩道（ウラジロガシ三十三株・ヤブツバキ百株）、能海寛顕彰碑（チベット探検家）、波佐一本松城跡（中世の山岳城郭・畝状豎掘）、笠松峠の畳石路（全国第二位）、尼子經久の墓（永昌寺）などがあり、「道の駅」を滞留の場としての学習と憩いの施設が既に完備しているのである。

西中国山地国定公園の大佐山・大潰山、雲月山へのハイキングや自然観察学習。波佐川での淡水魚の溪流釣り、アユ釣り、魚介類の自然観察学習。波佐城山キャンプ場での組織キャンプ。千年比丘一号墳（三、四世紀の古墳）の見学、七渡瀬Ⅱ遺跡出土の埋蔵文化財による考古学の学習。淡水魚の「カナメ」の釣り堀など周辺施設にはこと欠かないものがある。

現在の「野菜無人売り場」を道の駅内に「有人売り場」を設ける、食堂は特産の「ワサビ」と「淡水魚」と「蕎麦」を生かした食材とする。例えば、「ウズメメシ」、「ワサビの葉寿司」、「カナメ蕎麦」、「サバ寿司」など。

温泉のある「道の駅」も可能となろう。いずれにしても、町民本位の施設であり、来町者の受け入れ玄関口であるので、情報発信には打ってつけの施設である。町の観光PRには必要不可欠であり、県西部のルート一八六の情報発信基地としての県境「道の駅」としての重要性を、再度提言するものです。

「道の駅」に是非付帯させたいものに「能海寛記念館」がある。昨今、全国的に能海寛の業績評価が見直され、知的国際交流の先駆けとして能海寛の再評価がなされている。全国に発信できるこれら数々の観光資源を利活用しない手はないと思うのである。

(3) 金城町の観光パンフの発行

「なわて塾」専門部会で提案された観光パンフレットは、その後調査・研究を重ねて平成四年十一月一日に発行した。

観光パンフのタイトルは

抱月生誕の地 金城町

歴史の心をはぐくむ たたらと和紙の里

カチューシャの唄 知音(ちい)都市交流

【相馬御風】

歌人・詩人・評論家。本名、昌治。新潟県糸魚川市生まれ。早大卒。自然主義評論家として活躍。口語自由詩の先駆をなす。カチューシャの唄の作詞を島村抱月と共作する。早大校歌を作詞。評論『黎明期の文学』『大愚良寛』など。



相馬御風
新潟県糸魚川市

金城町の偉人

【島村抱月】

評論家・作家・演出家。明治四年一月十日金城町小国下土居に生まれる。早大卒。早大教授。自然主義文学運動・新劇運動に貢献した。文芸協会を経て女優松井須磨子と芸術座を結成。海外を始め日本全国津々浦々をくまなく巡回し欧州近代劇の大衆化に尽力。著書『近代文芸之研究』など多数。



島村抱月

【能海寛】

チベットの探検の先駆者・宗教哲学者。明治元年五月十八日金城町長田浄蓮寺に生まれる。哲学館（現在の東洋大学）卒。「チベット語大蔵経」を入手し英訳経典を世にだすため当時鎖国中のチベット領に入国する。著書『世界に於ける佛教徒』。翻訳『般若心経（梵藏漢英対訳）』ほか。

【松井須磨子】

女優。本名小林正子。長野市松代町生まれ。『人形の家』のノラで脚光を浴び、新時代の女優として活躍。島村抱月と芸術座を結成。『復活』の劇中歌としてカチューシャの唄を歌い全国的に知られた。



松井須磨子
長野県長野市

【中山晋平】

作曲家。長野市中野市生まれ。島村抱月の書生として寄留し東京音楽学校卒。民衆に密着した童謡や流行歌などを多数作曲。作品『カチューシャの唄』『狸々寺の狸囃』『波浮の港』など。



中山晋平
長野県中野市



能海寛

【岡本甚左衛門】

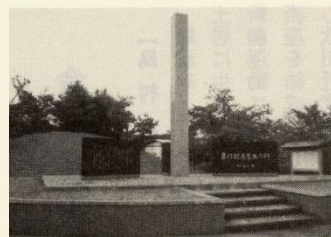
七条開拓者。安永三年金城町七条に生まれる。七条村（青原、若林、新開）の庄屋役を勤める傍ら浜田藩から七条原の広漠たる平原地の開拓の許可を受け私財を投じて文政元年より着手。周囲十町を越える大溜池をはじめ数個の溜池を構築する公共事業も実施。たたら経営、牛馬市なども開設した。



岡本甚左衛門

【島村抱月文学散歩コース】

美又温泉国民保養センター↓島村抱月先生の碑（抱月公園）↓元久佐庄屋（佐々田家）↓久佐八幡宮（抱月の学び舎）↓島村抱月文学碑（抱月ふるさと公園）↓生育の地「熊屋」（抱月一家の久佐村での住居跡）↓浄光寺（佐々山一家・抱月の墓）↓光超寺（抱月の父の終焉の地）↓旧小国小学校跡（抱月学び舎）↓最中山神社（抱月の父半三郎が絵馬額奉納）↓中屋「屋敷町」（抱月家族の仮宅跡）↓抱月生誕地顕彰の杜（生誕地・下土居）↓田野原たたら跡↓郷土の傑人顕彰板（金城町民俗資料館庭に建立）↓金城町歴史民俗資料館（抱月生誕の地を明かす資料を展示）



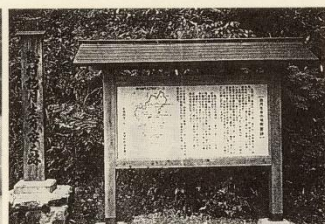
島村抱月先生の碑（抱月公園）



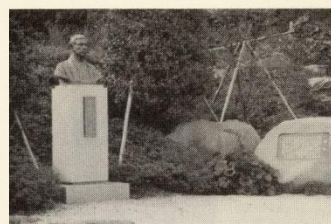
島村抱月文学碑（抱月ふるさと公園）



久佐八幡宮（抱月の学び舎）



生育の地「熊屋跡」



抱月生誕地顕彰の杜（生誕地・下土居）



郷土の傑人顕彰板



金城町歴史民俗資料館（抱月の資料を展示）



《観光パンフ中面の案内》

チベット探検の先駆者『能海寛』生誕地

（金城町波佐地区）

観光ルートごあんない

【能海寛哲学の散歩コース】

金城町歴史民俗資料館（チベット探検家・能海寛資料展示）↓郷土の傑人顕彰板（金城町民俗資料館庭に建立）↓浄蓮寺（能海寛生家）・能海寛顕彰碑↓千年比丘古墳群↓波佐一本松城跡↓常磐八幡宮↓笠松峠の畳石路（弥栄村へ法務の往來に通過）↓エクス和紙の館（記録魔といわれるように和紙との関わりが強かった）

【波佐の歴史街道散歩コース】

エクス和紙の館↓金城町民俗資料館↓金城町歴史民俗資料館・佐竹家の庭園&常磐の名水↓能海寛顕彰碑&浄蓮寺↓千年比丘古墳群↓波佐城山キャンプ場↓波佐一本松城跡↓波佐常磐山八幡宮↓天然記念物アシオスギ&的場（野外弓道場）↓常磐山のカシ林（みんなで守る郷土の自然地域）↓ヤマメつり掘センター↓笠松峠の畳石路↓速田神社

【黒金（たたら鉄）と和紙の道散歩コース】

金城町歴史民俗資料館（たたら製鉄資料、たたら古文書、二丁ワイゴたたら）↓佐竹の庭園（元鉄山経営者）↓金城町民俗資料館（紙漉き用具、旧製法紙漉き写真パネル展示、楮釜場立体展示、いろり場立体展示）↓エクス和紙の館（紙漉き体験）&和紙の資料展示室（紙漉き人形立体展示）↓常磐山八幡宮（絵馬奉納額）たたら流し製品）↓笠松峠の畳石路（砂鉄、紙年貢を運んだ道、全国二番目の石畳距離）↓栃下たたら跡↓

【自然探索散歩コース】

波佐城山キャンプ場↓波佐一本松城跡（中世の山岳城郭）↓水見城跡↓才の坪↓笠松峠の畳石路（金城町指定史跡）↓立石の記念碑、大芝、涼みの松、水の横がわ地蔵堂）↓速田神社↓常磐山の大杉五株（島根県指定天然記念物）&カシ林（みんなで守る郷土の自然地域）

このほか、金城の宿、金城のお食事処、金城の土産品などを掲載。B二判・両面カラー版（写真七十七枚使用）で五千部印刷した。新聞紙上でも大きく紹介された。

【島村抱月文学散歩コース】

文豪「島村抱月」縁の地をたどる「島村抱月文学散歩コース」のデータを次のとおり掲載します。

- | | |
|---------------------|-------------|
| ① 美又温泉国民保養センター★ | (自家用車利用の場合) |
| ② 島村抱月先生の碑★ | ①→② 1,900m |
| (抱月公園) | |
| ③ 佐々田庄屋跡 | ②→③ 2,350m |
| ④ 久佐八幡宮(旧久佐小学校) ★ | ③→④ 600m |
| ⑤ 島村抱月文学碑★ | ④→⑤ 1,600m |
| (抱月ふるさと公園) | |
| ⑥ 生育の地・熊屋 ★ | ⑤→⑥ 150m |
| ⑦ 白甲たたら跡 | ⑥→⑦ 3,800m |
| ⑧ 浄光寺・佐々山家の墓 | ⑦→⑧ 3,350m |
| 島村抱月一家の墓・はつ恋の碑★ | |
| ⑨ 光超寺・抱月の父終焉の地★ | ⑧→⑨ 5,200m |
| ⑩ 最中山神社★ | ⑨→⑩ 3,700m |
| ⑪ 生育の地・中屋・屋敷町 | ⑩→⑪ 800m |
| ⑫ 生誕地顕彰の杜公園★ | ⑪→⑫ 1,300m |
| (抱月胸像、略歴碑、歌碑、生誕地の碑) | |
| ⑬ 田野原たたら跡 | ⑫→⑬ 2,300m |
| ⑭ 郷土の傑人顕彰板 | ⑬→⑭ 5,500m |
| ⑮ 浜田市金城歴史民俗資料館★ | ⑭→⑮ 100m |
| (島村抱月関係資料を収蔵・展示) | |
| 全コース内総距離数 | ①→⑮ 32,650m |

★印は、文学散歩コースの案内看板の設置を表す。



(4) 余暇の使い方、活かし方と生涯教育

生涯教育は自己啓発に負うところが非常に大きいので、平素からの自己教育力を高める工夫努力も大いに必要である。目標を少し変えて見るのも一つの方法かもしれない。

生涯学習を推進する上では余暇時間を如何にうまく使うにかかっている。短時間であっても、頭の切り替えがスムーズにできるか否かにかかっている。

いずれにしろ価値観のウエイトによって各々の物差しが変わるのである。多様化しているからこそ、自分の欲求量に打ち勝ち、中長期の目標に邁進できるか、仕事以外の専門部門を持つことも一つの方法である。趣味やスポーツに余暇を有意義に活用し、リフレッシュすることも必要である。年間千八百時間の労働時間を守りながら、土日の非番日、週休日を巧く活用することも大切になってくる。いずれにしても生活時間のバランス感覚が必要である。

2 地域自立への飛躍

(1) 高齢化社会と福祉社会への対応

二十一世紀は少子化による高齢化社会と福祉社会の世紀となる。子供は地域の宝であると同時に子供への教育は次

生産力のつく地域づくりを模索する姿勢は崩せない大切な問題である。

(2) ニューメディアの活用で地域格差の是正

今やマルチメディアの時代。パソコン通信、インターネット通信、電話回線でEメールの交換。衛星TV放送の受信。携帯電話の普及。今やメディアの普及により都会と田舎の格差は無くなって来ている。

科学物理万能の二十世紀は間もなく過ぎようとしている。二十一世紀は心の時代である。いかにメディアの時代であっても最終的には、人間が価値判断を下して意志決定をして行くのである。その時、心の問題が大きくクローズアップされるであろう。グローバルでも、ミクロでも、人間はいかようにも対応できるのだから、コンピュータとのコミュニケーションよりも人間同志のコミュニケーションが大きい必要がある。価値観はその時代によって大きく変容している。結果が出たときに漸く軌道修正ということになる。

メディアについて言えば、メディアとうまく付き合う、使いこなすことが大切である。パソコン通信でホームページを開き町を地域をPRすることは大切である。

また、今後は遠隔教育による生涯学習が必然的に導入さ

代を担う礎を学ぶ登竜門でもある。高齢化社会、福祉社会に向けての自己の在り方について学習をメニュー化するべき時である。誰もが避けて通れない高齢化問題、福祉問題、先の問題だから、今が良ければオーライの姿はあまりにも情けない。元気な自分たちが、今、その立場ならどうするかを当てはめて真剣に議論すべきである。全てがメニュー化されつつある幾多の指針の中で、高齢化問題と福祉問題は今世紀後半から発生したまだ新しい問題でもある。ただ今、進行中の問題として将来を予測したメニュー化というものには問題も多い。だが、避けて通れない重要な問題でもある。

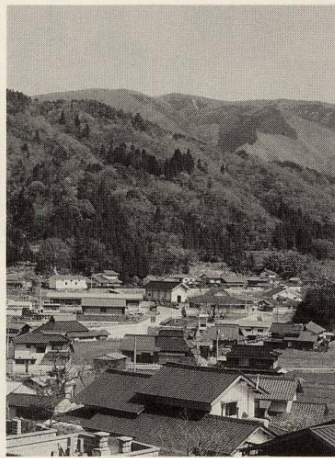
福祉が成熟してくると、地域が自立して公的機関からのサポートを受けながら自助努力することも必要となってくる。年金を受給しながら方や福祉問題に関する受益者負担率も相応にしていかなるを得なくなるだろう。

ライフ・スタイルの変化で三世同居の家庭も段々少なくなっている今日、三世同居の良い面を今一度、見直すことも必要である。

それだけでなく、地域の集落の自活力が弱まれば、独居世帯が増え、元氣盛りの時はいざ知れず、近い将来は集合住宅に集合しての集約管理された住居での生活も余儀なくされることも予測されるのである。

いずれにしても、地域全体で地域を守って行く、地域になれるようになるだろう。一つの例は放送大学がこれにあたると思われる。遠隔教育による地域の是正には格好のメディア媒体である。公民館活動においても大いに活用すべきである。

これからの金城町は能海寛を媒体とした町づくりを推進すれば町も国際化、国際交流の主流を行くことになる。パソコン通信でホームページを開き全世界へ「能海学」を情報発信したら金城町のグレードもさらにアップするだろう。次世代へ向けて知的国際交流の発信基地として一翼を担う日もそう遠くはないだろう。



波佐地区の中央部

みんなで守る郷土の自然

「常磐のカシ林」

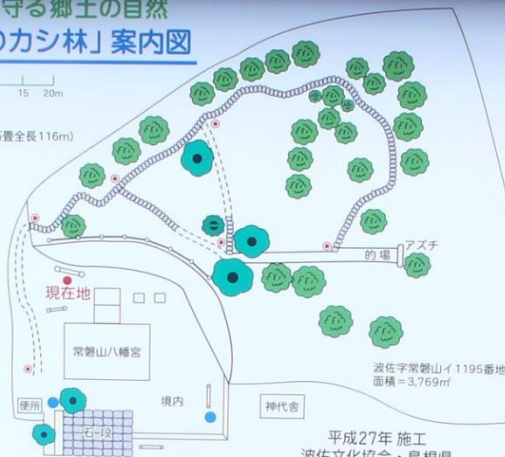
- 平成4年より管理団体となり
草刈り清掃作業実施
- カシ林遊歩道の（敷石）整備
- 案内看板類の整備
- 「自然観察会」の開催
- 「常磐のカシ林」パンフの作成
- カシ林遊歩道などの維持管理

みんなで守る郷土の自然
「常磐山のカシ林」案内図

0 5 10 15 20m

〰〰〰 散策巡回路 (石畳全長116m)

- アシオスギ
- ウラジオガシ
- ホウノキ
- 案内板
- 歌碑



平成27年 施工
波佐文化協会・島根県

みんなで守る郷土の自然 (常盤山のカシ林)

八幡宮の社殿裏のウラシロガシの巨木林は、杉の巨木三本やシロダモ、ユズリハの低木、チャボガヤ、ハイイヌガヤの常緑針葉低木が見られ、日本海側の典型的なカシ林の特徴を持ち、西限植生として貴重なものです。

波佐文化協会 金城町 島根県



自然観察会の模様



樹齡千年の「常磐の大杉」



ホウノキ



ヤマフジ



ヤブツバキ



ウラジオガシ



散策遊歩道



ヤブツバキ



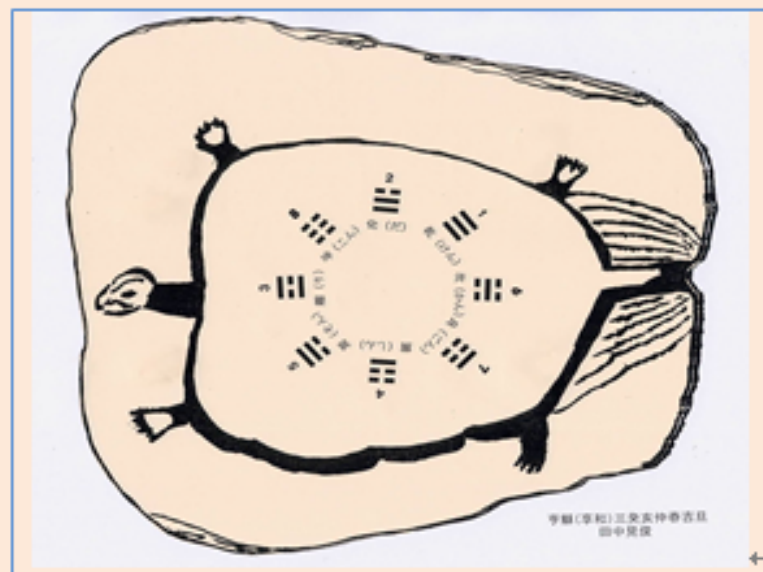
八卦占いのできる「手水鉢」

常磐のパワースポット

手水鉢で「八卦占い」

常磐山八幡宮の手水鉢「易八卦占い」は、享和3年（1803年）亀谷家・田中見俊氏が寄贈したもので、江戸時代から明治時代まで、この手水鉢を用いて一文銭で八卦を占っていた。亀の甲羅部分が水瓶となり、尻尾の部分から水が流れ落ちるようになっている。中央部に8個の符号が刻まれ1～8までの符号が施され、頭が3、尻尾が6、右手が8、左手が5、腹右2、腹左が4、右足1、左足7と乱れ配置となっている。

八卦を占うには、1円玉を中央から水の中に落とし、近い場所の符号が貴方の運勢となります。



☰ 一 乾 (けん) 大吉・円満健全
☲ 三 離 (り) 中吉・明智光麗
☴ 五 巽 (そん) 小吉・伏話教益
☶ 七 艮 (ごん) 中吉・静高尚保

☱ 二 兌 (だ) 小凶・脱和親密
☳ 四 震 (しん) 中吉・勉強成功
☵ 六 坎 (かん) 凶・憂沈伏寂
☷ 八 坤 (こん) 小凶・順静謙讓

石峰 & 抱月のふるさと金城町
「地域まるごと博物館」

<http://www.hazaway.com>



波佐文化協会 2015. 12. 20作製